西尾市雨水対策マスタープラン策定委員会議事録

<table>
<tr><td>会議名</td><td>第２回 西尾市雨水対策マスタープラン策定委員会</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>令和８年８月17日(月)午後３時00分～午後４時20分</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td>西尾市役所　５階53ＡＢＣ会議室</td></tr>
<tr><td>次第</td><td>１　委員長あいさつ
２　議題
　議案１　雨水対策マスタープランについて
３　その他
【配布資料一覧】
資料１　西尾市雨水対策マスタープラン策定委員会委員名簿
資料２　雨水対策マスタープランについて
資料３　用語集</td></tr>
<tr><td>出席者</td><td>【委員】
<table>
<tr><th>氏名</th><th>所属</th></tr>
<tr><td>戸田　祐嗣</td><td>名古屋大学大学院工学研究科教授</td></tr>
<tr><td>武田　誠</td><td>中部大学工学部都市建設工学科教授</td></tr>
<tr><td>磯貝　剛</td><td>西尾商工会議所専務理事兼事務局長</td></tr>
<tr><td>黒野　善久</td><td>西三河農業協同組合常務理事</td></tr>
<tr><td>山田　高生</td><td>西尾土地改良区理事長</td></tr>
<tr><td>浅井　隆一</td><td>西尾小学校区代表町内会長</td></tr>
<tr><td>倉内　賢一</td><td>一色西部小学校区代表町内会長</td></tr>
<tr><td>齋藤　正則</td><td>横須賀小学校区代表町内会長</td></tr>
<tr><td>加藤　光広</td><td>幡豆小学校区代表町内会長</td></tr>
<tr><td>山本　康裕</td><td>愛知県西三河建設事務所河川港湾整備課長</td></tr>
<tr><td>杉浦　宗仁</td><td>愛知県西三河建設事務所都市施設整備課長</td></tr>
<tr><td>中根　由行</td><td>愛知県西三河農林水産事務所幡豆農地整備出張所建設課長</td></tr>
<tr><td>本田　正浩</td><td>西尾市危機管理局長</td></tr>
<tr><td>小笠原　敬</td><td>西尾市産業部長</td></tr>
<tr><td>榊原　茂春</td><td>西尾市建設部長</td></tr>
<tr><td>片山　佳隆</td><td>西尾市都市整備部長</td></tr>
<tr><td>杉山　泰弘</td><td>西尾市上下水道部長</td></tr>
</table>
敬称略</td></tr>
<tr><td>欠席者</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>１　委員長あいさつ
戸田委員長よりあいさつ

２　議題
議題１　雨水対策マスタープランについて、事務局より説明を行う。</td></tr>
</table>

	（委員の方からのご意見） 【武田副委員長】 目標とする降雨について、気候変動を考慮し、年超過確率 1/5 の降雨を 1.1 倍するとしているが、国土交通省の資料は大河川において年超過確率 1/100 等の大きな規模を対象として 1.1 倍としている。これを、内水を対象とした雨水対策マスタープランに適用することは過大ではないのか。 また、目標とする降雨についても、例えば、時間最大 51㎜ の確率規模を算定し、それを目標として記載してもいいのではないか。 【戸田委員長】 国土交通省の資料に記載されている降雨量変化倍率 1.1 倍は、計画規模が年超過確率 1/100 等の大河川を対象としている。しかし、内水等で対象とする比較的小さい規模については、現在の技術では将来予測が困難なため、大河川で使われている 1.1 倍を参照する事例が多いことも事実である。 また目標とする降雨を 1.1 倍と表記するか安全度を高めた表記にするかについては、将来の気候変動を考慮して 1.1 倍と表現する事例が多い。これについては住民にとって分かりやすい表現を検討する必要がある。 【事務局】 次回委員会までに、どちらの表現にするか検討します。 【黒野委員】 西尾市は 2011 年の合併後、市内の農地は 372ha 減少している一方、抹茶や野菜、果樹等の農業産出額は 2024 年時点で県内 3 位となっており、地域経済を支えている。また、農地は雨水を一時的に溜める役割もあるため、農地が減少すると農業生産だけでなく防災、環境、景観といった様々な面で影響が懸念される。そのため、雨水対策マスタープランには農業用地の保全を位置付けていただきたい。 【事務局】 農業用地の保全に関する記載は、今後検討します。 【山田委員】 ハード対策について、市管理河川の整備が記載されているが、市内に多くある土地改良区の管理水路がある。これらについても明記していただきたい。 【事務局】 雨水対策マスタープランには、全体の部分で排水路の維持管理を明記しています。個別の部分については記載する予定はありません。 【山田委員】 資料には、市管理河川と明確に記載されている。これだと市管理河川しか整備しないというように読める。また、田んぼダムは民地のため、所有者の同意を得てから進めるようお願いしたい。 【戸田委員長】 雨水対策マスタープランでは、農地を保全していくことが大切であるという方向性を明記する必要はあるが、他の計画との整合性に留意する必要がある。 また、マスタープランには、行政が主体的に取り組むことと農地の所有者等に協力

	していただくことを区別して記載する必要がある。 【中根委員】 農地と農業施設が一体となって機能することで流域全体の治水機能が支えられているため、排水路や排水機場、水田貯留の対策を一体的に位置づけることが必要である。そのため、例えば「農地・農業施設の保全と活用」といった項目を追加し、農地の保全、農業用排水路や排水機場の適切な維持管理、計画的な整備・更新、行政と関係機関との連携を位置付けてはどうか。 【事務局】 現状の資料では、課題に対する対策を整理しています。今後、まとめ方について検討します。 【中根委員】 土地改良区管理の水路が多くあり、かつては農業用で作られたが実態として宅地の排水も受けていることから、西尾市と土地改良区が連携していく必要がある。 【戸田委員長】 流域治水の実践や水害の自分事化を進めるためには、地域の生業などと連携することが大切であるため、マスタープランで記載することを検討いただきたい。 【武田副委員長】 西尾市には農業に関する計画はないのか。 【事務局】 西尾市に農業に関する計画はありません。 【加藤委員】 対策にグリーンインフラがあり、資料の図には都市公園の整備や緑地の保全、道路空間の緑化、街路樹の管理といった内容が雨水対策とどうつながるのかが分からない。木を増やすと落ち葉で排水路が詰まる原因になるのではないか。 【戸田委員長】 この資料の図はグリーンインフラとしての例であり、この中から西尾市として取り組む内容を決めていくということではないか。 【事務局】 おっしゃる通りです。資料の図はグリーンインフラの全体像であり、例として記載しています。 【加藤委員】 雨水対策として適切なのか。落ち葉が詰まる等の内水氾濫の原因となるようなものをなるべく減らしていきたい。 【事務局】 浸水常襲地区の街路樹等については、大雨前に清掃等を行っております。そのあたりについても記載を検討します。 【戸田委員長】 雨水対策に効果があるグリーンインフラは取り入れるべきだが、維持管理上の問題から書くべきではないこともあるため、全てに取り組むと受け取られないように記載する必要がある。

	【本田委員】 内水氾濫はリードタイムがほとんどなく、避難指示を出してからの避難では間に合わないケースが多いため、資料 P.17 の図を、避難指示を受けてから避難すればいいというように受け取られないように修正していただきたい。 【戸田委員長】 ソフト対策の図が、情報を受けてから行動するというように見える。避難行動をあらかじめ決めておくことや防災教育の実施などが表現されていないため、工夫していただきたい。 【事務局】 図について修正を検討します。 【戸田委員長】 私から皆様に確認させていただきたい。現時点でまだまだ整備が進んでいない中で、20 年で到達できる現実性を踏まえて、目標とする降雨を市街化区域と市街化調整区域で気候変動による 1.1 倍をするか否かを分けている。これについて意見はあるか。 【他の委員】 異議なし。 【戸田委員長】 ハード整備の目標について、浸水被害の解消・軽減としている。これは、床上浸水は解消、床下浸水については軽減という目標である。これについて意見はあるか。 【他の委員】 異議なし。 【武田副委員長】 現在の下水道計画の内容や進捗はどうなっているか。 【事務局】 雨水管理総合計画が令和 6 年に策定され、計画規模は 1/5～1/5×1.1 です。具体的な排水対策は今後検討します。なお、具体的な進捗率は不明です。 【山田委員】 西尾市は海が近いため、潮位が高い時と低い時で排水能力に差があるため、対策効果に差が出ることはご理解いただきたい。

以上